

税金で支えていく私たちの未来

釧路市立共栄中学校 三年 嵐 伊紗那

私たちが通う学校には教科書、机、黒板など勉強に必要なものがたくさんそろっている。そして、それらのほとんどが、税金で賄われている。

小・中・高と十二年間、公立の学校に通った場合、一人あたり約一千万円以上の税金の支援を受けることになるそうだ。小学校で税金について学んだときからなんとなくは知っていたが、当たり前になっていた普段の生活に対して常に、感謝の気持ちを持っていくわけではなかった。

まず、一千万円もの大金があったら、何ができるだろうか。好きなものを好きなだけ買って、手に入れても、きつと余ってしまう。それだけの大金を「学習」にあててくれるのだから、「学習」はやはり大切で、生きていく上で必要なことなのだろう。

自分から積極的に学んでいくことをこれからの生活で意識しようと思う。

では、もしも「税金」という制度がなかったら、私の暮らしや、社会の様子は、どのようなになってしまうのだろうか。まず、学校で勉強することが難しくなってしまう。学校で働いている先生方などの給料も税金で賄われているので、授業を受けるのにお金を払う必要がでてくる。

また、道路や橋などの整備にも税金が使われているため、毎日、人や車などが行き来したり、風や雨にさらされたりすることで、どんどん傷んでいってしまう。税金がないと、道路や橋を修理するお金がないので、道路や橋は、壊れたまま放置されてしまったり、誰かが負担することになってしまう。そして、年をとって動けなくなり、働けなくなると収入がないため、お金が減っていく一方で、安心した生活を送ることができなくなる可能性がある。このように、「税金」という制度がなかったら、私たちが安全に安心して暮らすことは難しいと言えるだろう。

また、少子高齢化が問題となっているため、高齢者の医療や年金、介護などにより多くの税金が必要になってくるが、若者の数が減り、財源も減るので、支えていくのが難しくなると予想される。

たくさん問題がある中、私は「税金」があることに對して、感謝の気持ちを忘れずにいることが今の自分にできることだと思っている。両親との会話で、消費税が今では10%に引き上げられ、大変だと感じていることがわかった。また、家や土地、車にも税金が関係していて、私たちが普段、目に見えないところでも、税金という助け合いの輪が回っていることがわかった。そして、大人になったら、国民の義務として、しっかりと税金を払っていいと思う。

今は税金に助けられているが、今度は私が、税金を通して周りの人を助けられる存在になる！